

みやざき九条の会設立10周年記念講演



小森 陽一

小森 陽一氏 略歴

1953年東京生まれ。東京大学大学院教授。専攻は日本近代文学。2004年6月に結成された「九条の会」事務局長。【主要著作】『天皇の玉音放送』『死者の声、生者の言葉 文学で問う原発の日本』『記憶せよ、抗議せよ、そして、生き延びよ 小森陽一对談集』他多数

平和憲法が輝く国
日本をとり戻す
もう隷従はしないと決意して

9月28日(日) 13:00開場 13:30開演

参加費800円(前売り券あり) / 保育あり(1歳以上 要事前申込)

090-5283-1331(平野)

宮崎市民プラザ 1F オルブライトホール (宮崎市役所隣)

連絡先: 主催 みやざき九条の会 090-1920-3035 (村岡) 080-3956-8757 (野中)

なるべく公共交通機関をご利用下さい

《アピール》

集団的自衛権行使容認の閣議決定に抗議し、いまこそ主権者の声を全国の草の根から

2014年7月5日 九条の会

安倍晋三内閣は7月1日、多くの国民の反対の声を押し切って、集団的自衛権行使を容認する新たな憲法解釈の閣議決定を強行しました。憲法9条の下では集団的自衛権の行使は許されないとする政府の憲法解釈は、60年以上にわたって積み重ねられ、国会答弁などをつうじて国民に示されてきたものです。これを一内閣の考えでくつがえすことは、まさに立憲主義破壊の暴挙です。

集団的自衛権による武力行使は限定的なものとの政府の説明とは反対に、閣議決定の内容は際限なく武力行使が拡大できるものとなっています。国連安全保障理事会の決定にもとづいておこなわれる軍事行動への参加も明示的には否定されてはいません。自衛隊は海外で武力行使しないという原則がくつがえされ、自衛隊員が海外で殺し殺されることとなります。「戦争をしない、軍隊をもたない」と定め、国の安全と生命・自由・幸福追求の国民の権利は徹底した平和外交によって守るとした憲法9条を根底から破壊するものです。

安倍内閣は今回の閣議決定を基礎に、自衛隊法、周辺事態法やPKO法など関連する法律の「改正」をおこない、日米防衛協力のための指針(ガイドライン)の再改定によって日本を「戦争する国」にしようとしています。

今こそ、私たちは主権者として、集団的自衛権行使容認の閣議決定に対して、きっぱりと「NO」の意思を示し、「戦争する国づくりは許さない」との声を全国の草の根からあげるときです。全国のすべての「九条の会」が、その先頭になって、創意と工夫をこらして多様な行動に立ちあがることを呼びかけます。

上記アピールを受けて、九条の会事務局からの具体的な行動の提起

- ① 秋の臨時国会の冒頭となる2014年10月を全国統一行動月間に指定し、この期間に全ての九条の会が最低限1回は何らかの行動を設定し、とりくむよう呼びかけます。
- ② とり組み方は都道府県レベルから、市区町村レベルの九条の会、あるいは各分野ごとの九条の会の単独、あるいは共同したとり組みとしましょう。
- ③ 近隣の九条の会で、活動が休止状態になっているところに積極的に働きかけ、この月間を契機に立ち上がってもらうように協力しあいましょう。
- ④ 活動形態は各種イベント、集会、公開学習会、署名、シール投票、チラシ・リーフレットの配布、ポスターの張り出しなど、九条の会らしい(「集団的自衛権の行使容認に反対し、憲法9条をまもる」という共通の課題で一致する全ての人々が加わるような配慮をした)とり組みとして、行われるのがのぞましいです。
- ⑤ 全国の九条の会の活動を激励するためにも、首都圏ではこの期間に、首都圏各九条の会が協力して、臨時国会の重要な局面になると思われる11月24日(月・休)、日比谷公会堂で、大規模な集会とパレードを企画したい。パレードは九条の会らしいものとして、皆さんの知恵を結集して、創意工夫したものにしたい。この集会に向けて、各地・各分野の九条の会は、それぞれの足下で多様な形態の行動を組織し、その成果を持ち寄りましょう。
- ⑥ これらの活動の企画と結果を、「九条の会ニュース」、「九条の会メルマガ」を活用して、報告しあい、共有しましょう。
- ⑦ 以上のために、九条の会事務局は署名用紙、ポスター、チラシなどを作成し、サイトに掲載します。講師の紹介などもひきつづき積極的に行います。

※〈宮崎県内各九条の会の皆さんへ〉

上記の訴えに応え、この秋に、「県内の各九条の会」が、何らかの行動にとりくめるよう、みやぎき九条の会として、具体的な行動提起をいたします。連絡しあい、協力しあって、がんばりましょう!